


IAM MARKET INSIGHT
マーケット・インサイト

2026年6月15日

代表取締役社長 秋野 充成

今週のポイント いちよしアセットマネジメント**FOMC(米連邦公開市場委員会)でのウォーシュFRB(米連邦準備制度理事会)新議長の発言に要注目**

16～17日にFOMCが開催され、ウォーシュFRB新議長がどのような発信をするのが注目されます。4月21日に行われた米上院銀行委員会での指名公聴会における発言および事前公表された証言原稿を確認すると、FRBの政策運営を巡る「体制転換(レジーム・チェンジ)」の必要性を強調しています。具体的には、

- ①FRBの独立性は制度論ではなく、物価安定を達成し続ける行動によって担保される
- ②独立性の基礎としてインフレ抑制を明確に位置づけ、インフレの責任はFRB自身に帰せられる
- ③フォワードガイダンス^{※1}や過度な情報発信、過大なバランスシートを含む政策運営・コミュニケーション全般の見直し
- ④コアPCE(個人消費支出)に必ずしも依存せず、トリム平均(上位と下位のデータを一定の割合で取り除いて計算した平均値)のことで、データの中心傾向をより確実に推定する統計的尺度)や中央値といった基調的インフレ指標をより重視していく 等々です。

また公聴会では、トランプ大統領からの圧力(利下げ方向の政策決定)を明確に否定しました。そして、過去の金融政策、とりわけパンデミック後のインフレ対応の遅れについては「過去40～50年で最大級の政策ミス」と表現し、FRB自身の責任を明確に指摘しました。さらに、バランスシートは「もっと小さくすべき」であり、FRBは長期国債を保有すべきではないと明言しています。加えて、「経済の供給面は劇的に変化している」と述べ、米国経済の潜在成長率^{※2}は高まりつつあるとの認識を示しました。AI(人工知能)が生産性にとって潜在的な恩恵となり得る点について、従来からの見解を改めて示した格好です。

マーケットはドット・チャートが公表されない可能性やQT(量的引締め)への懸念を強めていると見られる。こうしたウォーシュ氏の事前情報から、マーケットは以下の懸念を抱いています。

- ①フォワードガイダンスや過度な情報発信の見直し⇒「ドット・チャート」が公表されない可能性
- ②過大なバランスシートの是正(FRBは長期国債を保有すべきではない)⇒QT開始 の2点です。

FRBは従来、四半期毎に経済・物価および政策金利についてのFOMCメンバーの見通しを公表してきました。仮に政策金利の見通しであるドット・チャートが公表されない場合、マーケットは政策金利の方向感を失うことになり、短期的な金利変動を増幅しかねません(タームプレミアム^{※3}の変動が激しくなる)。また、FRBのバランスシート縮小が現実となった場合、世界的な株価上昇を支えたストーリーの一部を喪失することになります。ただし、今回6月のFOMCからウォーシュ色を前面に押し出すことはないと思います。そのためドット・チャートは公表されると思います。仮に公表されない場合でも、明らかなタカ派・ハト派を喧伝するコミュニケーションを取らないと考えます(あくまで都度データ重視の姿勢)。バランスシートの縮小も現時点では言及しないと想定しています。もちろん、いきなりの利上げもないと思われます。実際、ウォーシュ氏が重視する基調的インフレ指標は、足元の伸びが鈍化傾向です。

日米中銀会合後は、上昇基調を取り戻す展開になると思われる

米国株式市場は、5月雇用統計の結果を受けて金利が上昇傾向を示したことから、短期的に調整局面となりました。特に、SOX(フィラデルフィア半導体株指数)は短期的な過熱感を一気に解消する大幅な下落となりました。FOMC通過後は、10年債利回り低下、OIS^{※4}カーブ下方修正となり、米国株式市場は上昇基調を取り戻すと考えています。国内株式市場も、日米金融政策決定会合通過後、日経平均株価は高値更新となる可能性が高いと思います。

～ワンポイント用語集～

- ※1 フォワードガイダンス…中央銀行が金融政策の先行きについて示す指針のこと。
- ※2 潜在成長率…国内にある「モノやサービスを生産するために必要なもの(生産要素)」を、最大限に利用したときに実現するGDP(国内総生産)の伸び率のこと。
- ※3 タームプレミアム…短期債の代わりに長期債を保有することで投資家が求める追加の利回りのこと。
- ※4 OIS…「Overnight Index Swap」の略称で固定金利と変動金利の翌日物レートを交換するスワップ取引のこと。中央銀行の金融政策に対する市場の見方を示していると言われている。OIS市場にて算出される年限ごとの金利を線で結んだ曲線を「OISカーブ」と呼ぶ。

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
 ◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績等の記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。